

令和 7 年度生活発表会(表現) あらすじ

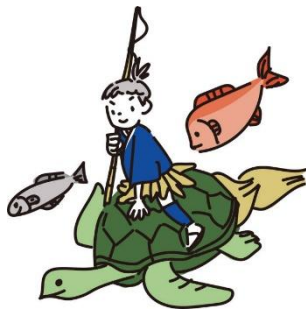
ぱんだ組『いぬのおまわりさん』

ある日、こねこちゃんが広場で迷子になってしまいました。心配したお母さんねこは、こねこちゃんをさがしに広場へ出かけます。すると、犬のおまわりさんに出会い、一緒に探してくれることに。広場ではうさぎさん、すずめさんも手伝ってくれて、みんなで力を合わせてこねこちゃんをさがします。にぎやかでやさしい仲間たちのおかげで、こねこちゃんは無事にお母さんと再会！みんなにありがとうを伝える、心あたたまるお話です。



きりん組『浦島太郎』

むかしむかし、浦島太郎という男の子が、子どもたちにいじめられていたカメを助けました。しばらく経ち、再び浦島太郎の前にカメが現れ、助けてくれたお礼にと竜宮城へ連れて行ってくれました。竜宮城では美しい乙姫様に歓迎され、カニや魚たちの踊りや素敵なお馳走でもてなされ、楽しい毎日を過ごしました。しかし、何日か経つと、家族や村のことが気になり、帰りたくなると、乙姫様から「困った時はこれを開けてください。」と玉手箱をもらいました。村へ帰ってみると、知っている人はおらず、見慣れたはずの街が変わっていました。そして、玉手箱を開けると、どうなってしまうでしょう・・・？



ぞう組『西遊記～火焰山の巻』

火焰山（かえんざん）を越えれば、いよいよ目的地・天竺（てんじく）。

孫悟空たちはここまでたどり着きましたが、前に立ちふさがるのは、燃えさかる火の山です。どうかしてこの火の海を鎮めなければ、花の精や水の精が倒れてしまい、自分たちも天竺へ行くことができません。三蔵法師から「牛魔王が持つうちわ“芭蕉扇（ばしょうせん）”をあおげば火が鎮まる」と聞いた孫悟空。

さっそく筋斗雲（きんとうん）に乗って、牛魔王のもとへと向かいます。

けれども、牛魔王が大切にしている芭蕉扇を、そう簡単に貸してくれるはずがありません。互いの術を使ってやり合ううち、悟空も苦戦！さて、孫悟空は無事に芭蕉扇を手に入れ、火焰山の火を鎮めることができるのでしょうか――。

